

2016 年 2 月 8 日
独立行政法人都市再生機構
東京地下鉄株式会社

東京メトロ日比谷線虎ノ門新駅（仮称）整備にかかる工事着手について

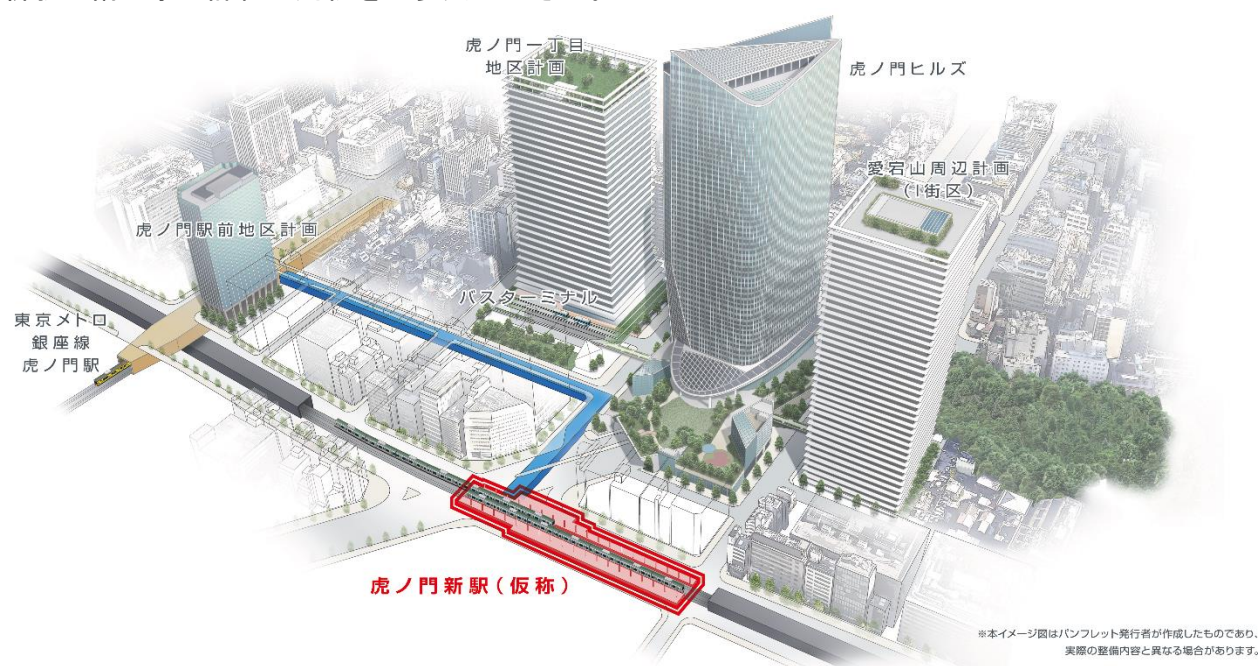
UR都市機構（本社：横浜市中区／理事長：上西 郁夫）と東京メトロ（本社：東京都台東区／代表取締役社長：奥 義光）は、UR都市機構が事業主体、東京メトロが運営管理を行う予定の**東京メトロ日比谷線虎ノ門新駅（仮称）整備について、本日起工式を行い、今後工事に着手いたします。**

新駅は日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間の国道1号と環状第2号線の交差点付近に位置し、相対式2面のホームを設置いたします。工事にあたっては日比谷線の既設トンネルに影響を与えないアンダーパニング工法を採用し、列車及びお客様の安全を確保しながら工事を進め、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催前の供用開始、2022年度最終完成を目指します。

2020年供用開始時には、ホーム及び暫定の改札口は地下1階に設置し、その後2022年度最終完成時には改札口を地下2階に設置（移設）する予定です。

引き続き関係機関及び周辺の都市開発との連携・調整を図りながら、新駅の整備を進め、交通結節機能の強化によるお客様の利便性向上に貢献してまいります。

新駅整備工事の詳細は別紙をご参照ください。



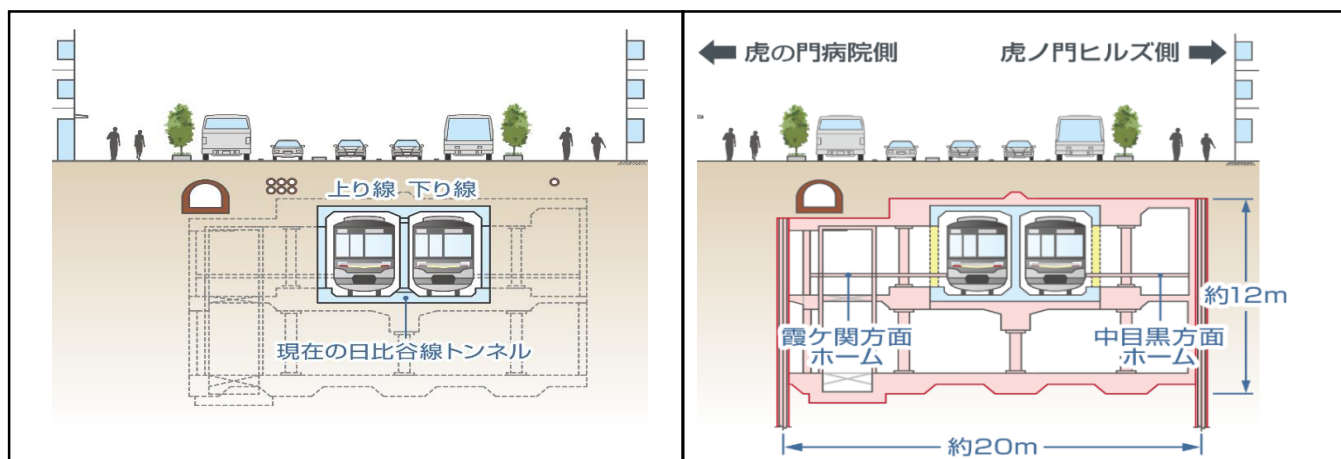
虎ノ門新駅（仮称）付近供用開始時イメージ図

【新駅工事概要】

- 1 事業の名称 地下鉄日比谷線虎ノ門新駅（仮称）整備事業
- 2 事業主体 独立行政法人都市再生機構
- 3 設計・工事 東京地下鉄株式会社（独立行政法人都市再生機構から受託）
- 4 事業スケジュール 2016年2月工事開始、2020年供用開始※、2022年度最終完成予定
※東京オリンピック・パラリンピック開催前の供用開始を目指します。
- 5 事業費 約170億円 ※供用開始時までの事業費
- 6 整備位置 東京メトロ日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間（下図）
東京都港区虎ノ門一丁目22番地先



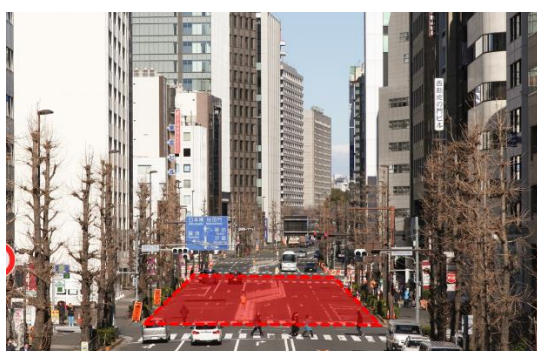
- 7 駅の形状等 相対式ホーム2面、計画延長147m
地下1階にホーム及び暫定改札設置（供用開始時）
※最終完成時には地下2階に改札設置（移設）
- 8 施工方法 開削方法、アンダーピニング工法（現在の日比谷線トンネル直下の施工）
- 9 新旧イメージ図（断面）



現状

供用開始後

10 現況写真等



新駅設置場所
（国道1号桜田通り、赤枠部）



起工式の様子
（左：UR都市機構上西理事長、右：東京メトロ奥社長）